

令和2年度 第1回道の駅あらお（仮称）基本構想等策定委員会議事録要旨

日時：令和2年9月3日（水）午後3時～午後5時

場所：荒尾市役所11号会議室

議題：

1. 道の駅あらお（仮称）基本構想について
2. 基本計画の策定に向けた今後の検討事項及び委員会スケジュールについて
3. 基本構想のコンセプトを踏まえた道の駅あらお（仮称）の魅力づくりの方向性について
4. 調査計画の概要について
5. 意見交換会 【テーマ】導入機能ごとの特色について

出席者：波積真理委員長（熊本学園大学教授）、山代秀徳副委員長（荒尾市観光協会会長）、高橋伸佳氏（JTB総合研究所所長）、丸尾淳一氏（荒尾商工会議所副会頭）、西川幸一氏（荒尾漁業協同組合代表理事組合長）、前田和隆氏（熊本北部漁業協同組合副組合長）、尾上光洋氏（玉名農業協同組合荒尾梨部会部会長）、吉村信明氏（荒尾酪農業協同組合代表理事組合長）、古城義郎氏（荒尾市農業委員会副会長）、内田保代氏（荒尾市食生活改善推進員協議会会長）、長江亮氏（独立行政法人都市再生機構九州支社市街地整備第2課長）、北原伸二氏（荒尾市産業建設部長）

事務局：田中産業振興課長、高村産業振興課長補佐、松本産業振興課参事、平山産業振興課副主任、(株)パシフィックコンサルタンツ ほか

## 1. 開会

田中産業振興課長が開会を宣言した。

## 2. 市長挨拶

波積委員長をはじめとした各委員の方々の精力的な議論により基本構想を策定することができた。基本コンセプトが「しあわせと元気の創造ステーション～有明の海と小岱の山で紡ぐ食ものがたり～」となっておりそれを踏まえ、本年度はより具体的な協議を行っていただく。

改めて、道の駅の整備を通じて本市が何を目指しているのかを申し上げる。

荒尾市の農業については、代表的な「荒尾梨」、そして「みかん」、最近では「ぶどう」を作られている方も増えている。野菜は「スナップエンドウ」、「金山スイカ」、「ナス」などがある。また、酪農では大変おいしい「生乳」があり、「オリーブ」についても生産量が上がってきている。「キノコ」の生産をされておられる方もいらっしゃる場所である。「のり」や「マジック」などの海産物もあるなど、荒尾市にはおいし

いものがたくさんある。農業・漁業というのは非常に大事な産業であると考えている。安全でおいしいものを多くの方に買って、食べていただき、是非、一次産業を活性化していきたい。

一方、後継者不足等の課題がたくさんあることも認識しており、その中で、もっと一次産業をやりたい、引き継ぎたいと思っていただく方を是非増やしていきたい。そのため道の駅であると思っている。

また、有明海沿岸地域のおいしいものを揃えたり、観光面においても北の玄関口として広域的な連携を図りながら、近隣地域も含めた一体的な地域活性化に貢献していきたいと考えている。

是非、皆様の色々な知見をいただきながら、荒尾の道の駅に行きたいと思っていただけるような、しあわせや健康を感じることでできる施設整備ができるようご支援、ご協力をいただくようお願い申し上げます。

### 3. 諮問

委員会を代表して波積委員長、山代副委員長へ浅田市長から基本計画策定について諮問された。

### 4. 委員長あいさつ（波積委員長）

本日はお忙しい中お集まりいただき、御礼申し上げます。

今年の3月以来の開催となるが、本日こうして、皆様のお顔を拝見できたこと、令和2年度第1回道の駅あらお(仮称)基本構想等策定委員会を開催することができたこと、大変うれしく思う。

また、荒尾梨部会の尾上委員、荒尾商工会議所の丸尾委員、UR 都市機構の長江委員の3名の委員の方には、本日から本委員会にお力添えいただけるということであり、よろしくようお願い申し上げます。

今回から、道の駅あらおの基本計画策定に向け、本委員会で検討していくこととなるが、昨年度策定した基本構想では、コンセプトと枠組みなどについて取りまとめ、今年度より検討する基本計画では、その基本構想をもとに、具体的な機能や施設規模、それらの配置計画などを定めていくこととなる。

一方、今年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活にも大きな影響があり、基本計画の策定においては、新たな生活様式に対応した機能やサービスについても検討することが必要となる。

そこで、皆様の経験に基づいた知識やアイデアを活かしたご意見をいただき、新しいことにチャレンジする道の駅となるよう、基本計画の策定へのご協力をお願い申し上げます。

## 5. 新委員の紹介

田中産業振興課長から、新委員を紹介した。

※市長は公務都合により退席した。

## 6. 議事

### (1) 道の駅あらお（仮称）基本構想について

意見や質問はなかった。

### (2) 基本計画の策定に向けた今後の検討事項及び委員会スケジュールについて

内容について意見交換がなされた。

(主な意見)

- 防災拠点としての道の駅と記載があるが、近年の豪雨災害について、浸水や水害の懸念はないのか。後方支援の拠点とはどのような形なのか。豪雨災害の際、市役所前は浸かっていたが、どのようにして防災拠点まで辿り着くのか。

【事務局】

⇒水害の際、市内に浸水箇所は発生していたが対象地は浸かっていなかった。災害の種類により対象地を避難場所とすることを想定している。また、広域防災拠点としていく際に荒尾市が災害にあってないことが条件になる。その場合、有明海沿岸道路が物資流通の重要な動脈となり、防災拠点として具体的にどのような機能が必要かどうかは今後検討していく。具体的には駐車場、会議室、ヘリポート、備蓄品、発電機能なども必要と考えている。

- 新しくつくるまちということで、防災性はしっかりと確保できるようお願いしたい。近くにポンプ場があるので大丈夫かと思うが、1,000人規模のまちが出来るということで、災害にあわないようなまちづくりをお願いしたい。

- 昨今の感染症を踏まえて、衛生機能が必要。道の駅に対する要求事項が変わってきている。色々な調査を含めていく中で、そういった機能が今後求められると改めて感じる。現在考えている導入機能についても、感染症を踏まえて検討していくのが良い。防災面でも、避難してクラスター感染などが懸念される。感染症は10年に1度くらいの単位で発生している経緯があるので、将来的にも感染症の流行があることを見越した施設とするのが良い。

【事務局】

⇒今後も専門的なご助言いただきながら検討していきたい。

- 令和6年開業と記載があり、前回聞いていた時期から少し遅れている。有明海沿岸道路整備がどんどん遅れていくと、道の駅も遅れていくのか。また、スマートシティに関する

る検討がどのような状況なのか、この委員会の中でも示してもらわないとわからない。  
また、管理運営について行政の考えを示して検討を行うことがまず必要で、運営主体が  
決まらないとこの計画が進まないのではないかと。

【事務局】

⇒開業時期は、前回は令和5年度末と示したが、実際に令和6年春を想定している。有明  
海沿岸道路の整備スケジュールに関わらず、道の駅の整備を進めることとし、運営主体  
については、来年度以降の設計・施工と並行して運営の準備を進める中で、主体を見極  
めたいと考えている。こういった形になるかは、事務局で案を示したい。現在進めてい  
るサウンディング調査においても、担い手探しを見据えている。スマートシティについ  
ては、道の駅にどのような機能を導入できるか検討しているが、日々新しくなるものな  
ので、整備の段階で最適なものを導入していく。

現在、南新地地区全体でのスマートシティの導入を検討する中で、道の駅にどのような  
施設・機能として導入するのか検討を進めており、全体の進捗については随時ご報告し  
ていきながら、道の駅の機能についてはこの場で意見交換を行っていきたい。庁内でも  
情報共有の会議を設けているので、適宜情報を提供していく。

- 有明海沿岸道路の延伸に伴って、道の駅が機能していくのではないかと考えている。未  
来都市の中に道の駅がある。荒尾らしい道の駅を考えてみたが、どうも思いつかない。  
荒尾らしさを出していくのではなく、荒尾らしいものを新に作っていく必要がある。立  
地も1丁目1番地ということで、この状況ではインバウンド客もなかなか見込めないが、  
検討していく必要がある。その場で生業を行っていく人の意見をよく聞いてほしい。情  
報発信基地としても重要となってくる。また、そこに行けば荒尾のことや周辺の観光地  
のことがわかる、そこから荒尾市の観光をはじめるといような機能も必要である。「with  
コロナ」を加えながらひとつずつ進めていく必要がある。
- 荒尾らしさについては最後の意見交換でも議論を行う予定なのでよろしくお願ひしたい。
- 第2回の委員会の予定日時について想定はあるか。

【事務局】

⇒11月26日木曜日を予定している。後日、委員の皆様には予定の調整をさせていただき  
たく考えている。

(3) 基本構想のコンセプトを踏まえた道の駅あらお（仮称）の魅力づくりの方向性につ  
いて

内容について意見交換がなされ、魅力付けの方向性について一部修正として承認された。

(主な意見)

- 資料3の魅力づくりの方向性について、これは誰に向けた魅力づくりを指しているのか。おそらく市民・来訪者に向いているのではと思う。道の駅の一つの主役は、今日参加している地域の事業者・生産者の皆様であり、プレイヤーとして活躍していくのではないのか。地場産業などへの貢献といった視点がないと、サステイナブルな施設にならないのではないか。商売のターゲットがありマーケティングの内容もありよくわかるが、別の側面としてプレイヤー主体の視点での検討が必要かと思う。

【事務局】

⇒仰る通りであると認識している。道の駅整備は地場産業の活性化が大きな目的である。方向性の2つ目は、直接的に表現していないが、最終的には地元事業者さんの活性化につなげたいという趣旨を含んでいた。より多く買って体験して頂くことで事業者さんの所得向上に繋げたいという狙いがあった。ご意見を踏まえて、方向性の2番目を、よりニュアンスが伝わるような表現に見直したい。

- 地域の道の駅の連携イメージとあるが、連携は難しいのではないかと感じる。競合するので連携しないという道の駅が多い。道の駅は、1回行って面白くないと感じてしまうと、もう行かないと思う。

【事務局】

⇒直売所と道の駅の1番の違いが道の駅のネットワークだと感じる。有明海沿岸に位置しているところで、各道の駅にも話をさせてもらい、そこから何らかの連携を図っていきたい。いただいた意見を参考にできることを模索したい。

- 資料2に小さく道の駅の配置図があるが、これ以上大きなものはないのか。20代～30代の子育て世帯をターゲットとしている中で、子育て施設や緑地帯、公園など周辺施設がどのように配置されるのか、次の会議で示してほしい。例えば、道の駅から200～300m歩いて公園に行くという事は子育て世帯や高齢者には過酷である。周辺施設も含めた分かりやすい配置図を示してほしい。

【事務局】

⇒配置については別の会議体で検討を行っている。道の駅については、第3回目の本会議の中で土地利用計画、配置計画を示すことにしている。

まさに今、先進コア街区の中で複数の施設をどう連携させていくのかを検討しているところであり、その連携が本地区の魅力になると認識している。今の段階でレイアウトをお示しするまでには至っていないが、第3回目の委員会の段階でお示しして、ご意見をいただければと考えている。

- 現時点での案もない中で、意見をくださいと言われても難しい。第2回、第3回では是非出していただくように調整いただきたい。

- 有明海沿岸連携について、実現は難しいとのご意見もあるが、有明海沿岸で連携して有明ブランドとして売り出すのは面白い。全国的にも、「荒尾」という地名より「有明海」という名前で売り出す方がブランド戦略的に良い。それぞれの特徴を売り出して足りない部分を補い合う形が取れば良い。実際に連携がどの程度できそうか、現時点でどのように考えられているか。

#### 【事務局】

⇒連携については資料4でご説明する予定だったが、今年度の調査として、有明海沿岸の道の駅への調査も予定しており、連携の可能性とその中でどう売り出していくかの差別化の可能性について、調査を行っていききたい。

#### (4) 調査計画の概要について

内容について意見交換がなされた。

(主な意見)

- 環有明一体での連携を目的に観光協議会を設立した。荒尾、みやま、大川、柳川が連携し、お客様を呼び込む為に協議会をつくってやっていこうとしている。観光協議会とも連携しながら、魅力づくりに繋げてもらいたい。
- 是非そういったものを活用してもらいたい。
- アンケート調査で昨年度に把握した課題については、解決する手立てが見えているのか。

#### 【事務局】

⇒農水産物の確保については、広域からの品揃えの確保の可能性等について調査していく。特産品については今年度、別の事業で特産品開発・組織の育成を行っている。競合環境については、そういったことを踏まえた調査を行う。市場環境については近隣住民・都市部の住民の意向をWEB調査で把握できると思うので、それを踏まえて今後検討して行く。

昨年度の調査を踏まえ、今年度は広域連携などの視点を持った上で再度調査を行うことで、別の角度からの視点が聞き出せるのではないかと考えている。

- 繁盛している道の駅は近所にスーパーなどが無い地域であり、荒尾市では周辺にスーパーがたくさんある。競合する可能性のある施設についてはしっかりと調査いただきたい。

#### 7. 意見交換

基本構想のコンセプトや議事の中で承認された魅力付けの方向性を踏まえて、機能の話題を中心に意見交換を実施した。

- 重要視するのは採算である。有明海沿岸道路の最終地点になると恩恵を受けると思っているようだが、今の大牟田を見ているとそうは感じられない。ユーマートクナガ、南

関いきいき村は性質が道の駅と似ている。いきいき村は約 12 億円の売上がある。12 億円を超えるものを作らなければ、経営として難しい。いきいき村を超えるアイデアはどのようなものを探せば見つかるのか。解決策としては、一度バーチャルで実施してみるのはいかがでしょうか。そこで開発者を募って売ってみると手ごたえが見えてくる。どうせ売るものを開発していくのであれば、施設でなくてもできる内容で、すぐ始めてみて売れるかどうか試してみるのはいかがでしょうか。

- 飲食や物販のプロだけを集めて話合ってもらう機会をつくるほうが、細かい話をつめられる。プロが集まって作った方が上手くいくと思う。
- 道の駅に来られる方だけをお客さんと思わず、ネット販売を視野に入れて、全国をお客さんと捉えるべき。特にこのコロナの状況では、ネット販売も視野に入れたほうが売上が上がる。視野を広げて、色々な考えができる時期だと思う。
- ベースの考え方として、「しあわせと元気の創造ステーション」というコンセプトを考慮しなくて良いのか。今まで散々考えてきた内容なので、コンセプトはこれからもしつこく入れていくべきである。その上で、昨年度までと違うのは、昨年度まではスマートシティと言いながら具体が見えていなかったが、今年NTTドコモとの提携がなされたことで、できることが大きく増えた。例えば、VR オフィス、車を住居にした宿泊、市民向けのドローン配達など色々なことが出来るようになってきているので、ベースとなる技術の上で議論しなければならない。健康と元気、ウェルネスという考え方の上に成り立っている部分があるので、先行モデルプロジェクトを意識してやっていく必要がある。スマートシティは生体センサーを入れてコンセプトの「元気」につながる事なので、最先端事例になる。技術立脚で議論することもあっても良い。ここを販売する拠点としてだけで捉えてしまうと成功せず、地場産品をプロデュースする拠点として捉えていくと成功するのではないか。
- スマートシティだけでなくスーパーシティの考え方もある。ドローン配送も行政としては認めていくのか。認めないのであれば、今までの考え方のもとにこぢんまりとした議論をしていく。そこは行政の考えも聞かせて頂きたい。道の駅でもネット販売でも、「売る」ことに関しては同じであり、付加価値が高い商品を開発しないと売れない。そこができた上で、「しあわせと元気の創造ステーション」でより際立つプランを練っていくことが必要である。
- 物販では競合が多い。単純な販売は難しいと捉えると、リアル・バーチャル両方で売上確保を目指すのが良いのではないか。コロナの状況でリアルとバーチャルの壁がなくな

っており、良い状況かもしれない。アプリなどでデータを集めて、データを活用して儲けるといったことも含めて、時間がかかるかも知れないので段階的に実施できると良い。

- スマートシティが荒尾らしさの強みだと思う。家族と話していると、毎日の献立が悩みなんで、買った食材で作れる献立やレシピが提供されるサービスなどがあると便利だと感じる。在庫の状況も踏まえたメニューの提案ができると、売り上げも伸びるだろう。
- そのようなサービスはすでにクックパッドが実施している。その未来は道の駅開業までに来ていると思う。
- 調理室を作ってもらいたい。高校生や地元の女性などが集って料理教室ができたり、災害時にここで炊き出ししたりする際にも使える。先程のレシピ提供のメニュー開発などもできると良い。公民館は老朽化していて、衛生面で問題がある。
- 子育て支援施設なども検討はこれから。道の駅と子育て支援施設が近くにあれば、調理教室が出来たり、食材を買ってプロに作ってもらうことも出来る。機能連携は色々な掛け算が出来る。
- 最終的には有明というブランドづくりである。ブランドとは愛着であり、愛着は関心の高さや知識の高さに関連すると言われている。知識を得るためには、有明海の干潟で事業者がどのような苦勞をして海苔をつくっているかなど、背景を知って実感・体感することが重要である。
- 同感である。あるオシャレと言われる道の駅に行き、美味しそうに見えるものが販売されていたが、買おうとは思わなかった。その理由が、どういう背景のもとで作られているかわからないからであった。また、少し食べてみないとわからない、ということもある。買ってもらうためにも、そういった機能があると良い。子どもを連れて行くと体験ものに興味を示す。調理して食べさせるだけでも全然違う。体験から愛着が生まれてブランドに繋がるのであれば良い。

## 8.その他

田中産業振興課長が、次回の委員会開催については、令和2年11月26日を予定していることについて報告した。

## 9.閉会

田中産業振興課長が、閉会を宣言した。